

私の家から半丁位のところに中島川が流れていました。川が浅くて流れもゆるやかで、ウナギやドジョウ、フナ、メダカなどいろいろな魚がいて、私の小さいときのよい遊び場でした。

本大工町の上の町は紺屋町といっていましたが、その橋の近くは膝までもない浅い流れでした。その流れのところに大小の小石を三、四十個積みかさねておくのです。そうして翌日行つて石を静かに一つずつ取つてみると、そこにウナギがかくれているのです。それをウナギはさみという鉄製のはさみではさんで取るのですが、とても楽しくて学校から帰ると、毎日のようにそれを繰り返していたのでした。

また本大工町の下町は魚の町というところでしたが、本大工町と魚の町の真ん中ごろのところは川が一段低くなつており、そこに大きな石をならべてあつたのですが、そこにもウナギがいるのです。石と石との間に手をつつこんでみると、ウナギがかくれているのです。それをやはりウナギばさみではさんでつかまえるのです。

それから魚の町には水車場がありました。トンネルのようになったところが水が流れ出るようにしてあるのですが、そこにもウナギがいるのです。トンネルの中をこわごわ、からだをかがめてはいつて行き、ウナギを探しますが、あるとき大きなウナギをつかまえ、うれしさいっぱいで家にとんで帰り母に見せたことを覚えています。

その晩ウナギをご馳走になったのですが、水車の主と思われる普通にはいない大きなウナギをつかまえ